

# 衛星を使ったがけ地のモニタリング・崩壊予知・警報発信

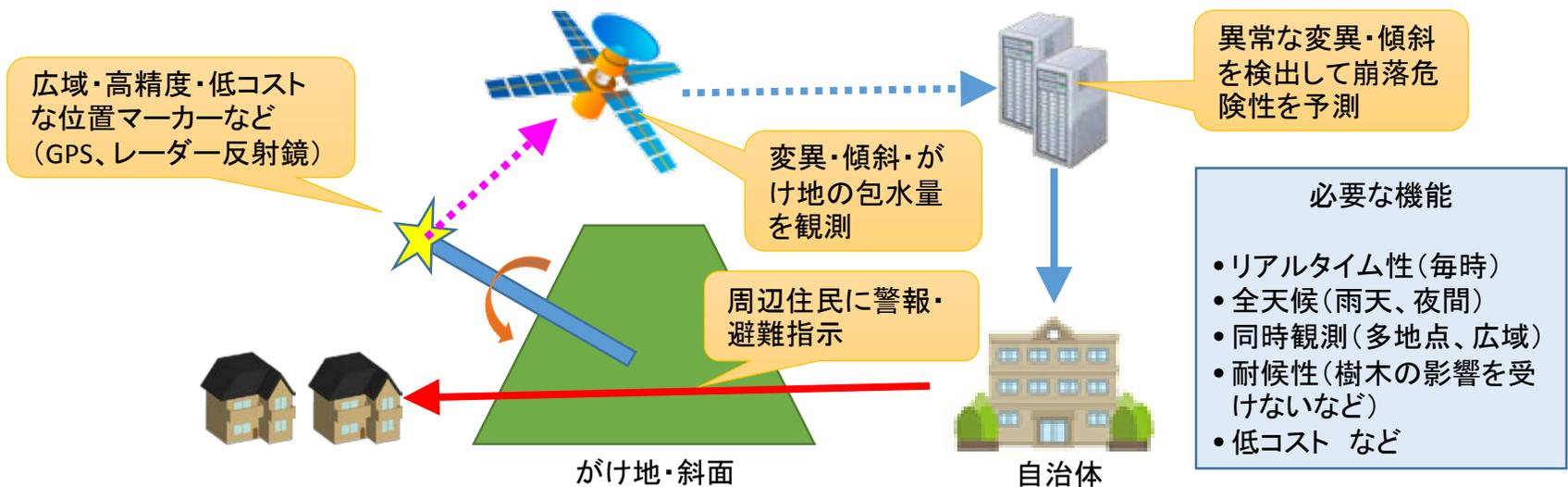
応募者個人

## 背景・課題

横浜市には土砂災害警戒区域内に約9,800箇所の崖地が存在しています。土砂災害警戒情報の発表とともに避難勧告を一齐に発令する区域を選定し、大雨により崖崩れの発生が予想される際には、その区域内に居住される方々に対して、速やかな避難行動を促すこととしています。しかしながら、数多くの崖地の調査には時間がかかり、その現況を常に把握することは難しく、また、降雨時に全ての箇所の崩落の喫緊性を人力で判断することは不可能です。そこで、人工衛星やIoTを活用し、リアルタイムでがけ地の異常のモニタリング・崩壊予知・警報発信システムが必要とされています。

## 実現イメージ

人工衛星からの観測により、ミリ単位での崖地の変異・傾斜異常・包水量などが判れば、崩落の危険性予測を行い、警報を発することができます。



## 実現方法・時期

想定される観測方法

- ・レーダーによる地形測定、差分解析
- ・GPS、レーダー反射鏡、光学マーカーによる位置変異測定
- ・メッシュでの累積降水量測定、将来降水量予測

